



津波で犠牲になった外国語指導助手、テイラーさんの家族から本を贈られる児童たち（6日午後、宮城県石巻市立万石浦小学校で）＝関口寛人撮影

## 米国人先生 津波の犠牲に

# 娘の愛読書 教え子へ

### 遺族、石巻で贈呈

宮城県石巻市の小中学校で英語の指導にあたり、津波の犠牲になった米国人女性(当時24歳)の家族が6日、石巻市立万石浦小学校を訪れ、書籍40冊を贈呈した。父親は「娘のように本を読んで夢を見つけ、勇気を持って生き抜いて」と児童約60人に語りかけた。

この女性は、米・バージニア州出身で、外国語指導助手のテイラー・アンダーソンさん。2008年に来日し、石巻市の小中学校で英語を指導した。震災当日は、万石浦小の児童が学校から避難するのを最後まで見守った後、自宅に戻る途中に波にのまれた。

この日贈られたのは、「テ

ィラー文庫」と名付けられた英語の本40冊。テイラーさんが好きだった作品が含まれ、両親やテイラーさんの出身校などが基金を創設し、本を購入した。万石浦小で開かれた贈呈式で、父アンディさん(54)は「本を一度読み出すと止まらなかった。本を読んで想像を膨らませてい

た」とテイラーさんの幼少期を振り返り、「日本とアメリカの橋渡しになりました」という夢の実現に読書が結びついたことを紹介した。

「テイラー先生はハリー・ポッターの話をしてくれ親近感が持てた。本を先生だと思つて、大切に使いたい」と話していた。家族は、テイラーさんが児童を代表し、アンディさんらに英語でお礼を述べた6年の引地海登君(12)は贈る予定という。